

とりお
鳥追いの小唄聞こゆる 田の畦に
あぜ
ゆり しゃみ みみだ
村に咲く百合 三味に耳立つ

令和四年十二月二十二日

大中臣正比呂



胆篠堂

石川秀範豊信圖

板元

「鳥追い」は五穀豊穡を願い、三味線を弾いて町や村を回る、旅する大道芸人である。
既に絶滅危惧種ではあったのだが、昭和二十年代までは残っていたであろうか。
「梅にも春」という小唄にも「鳥追い」が出て来る。

梅にも春の色添えて 若水汲みか 車井戸
わかみず

音も忙しき 鳥追いや 朝日にしげき 人影を
せわ

若しやと思う 恋の欲 遠音神楽や 数どりの
とおねかぐら かす

待つ辻占や 鼠鳴き 逢えて嬉しき 酒機嫌
つこうら ねずみ さかき

こい茶が出来たら 上がりやんせ ササもっといで！